

Tokyo GENGETSU

東京弦月会会報 No.27・28合併号 2021年7月

言葉の力……

ことばこぶ (藤田洋一 会長)

「真・善・美」の心をつないで (押方修 校長)
退任にあたって (吉田郷志 前校長)

コロナ禍の

東京弦月会の運営について (宮原一郎 幹事長)

企画部長新任のご挨拶 (早下隆士)

新役員挨拶 (塚本和夫／山脇享祐)

オンライン同総会報告 (大石裕子)

Fes. 報告 (堀籠映美／堤友孝／高山眞一／杉田さとみ)

エッセイ (河野浩和／久芳和美)



日南海岸
PhotoMiyazaki MORIMORI



言葉の力……ことばこぶ

会長 藤田 洋一 (12回生)

何ごとも 満つれば欠くる 世の中の
月をわが身の つつしみにせよ

いつだったかよく憶えておりませんが、あるお寺の掲示板でこんな一首を見かけました。現役の頃、ロケーションや旅で訪れる町などで寺や神社があるとちよっとお邪魔して境内をぶらぶらさせてもらったものです。もちろんお賽銭はきちんとお供えしました、ハイ！神社仏閣には永い歴史や深い文化を感じます。そうした中の散策は悩み事や仕事の疲れを忘れさせてくれました。冒頭の一首にもそんな思い出があります。

制作の現場はある意味では戦場のようなところで、準備段階から仕上げまで企画のねらいや手法などで意見が激しくぶつかり合います。お互いとんがったり、高ぶったりで一触即発も少なくない世界です。そんな日々の中、出合った言葉でした。「月をわが身のつつしみにせよ」に諭された気がして、ふと我とわが

身を省みることでした。寺社や教会などに限らず、街角の掲示板に書かれた言葉にも時代を超えて読む人の心を捉え、深く、強く、またやさしく語りかけてくるものがあります。言葉は生き物とよく言われますが、そうした言葉には力があります。

京都に往きますと、必ずといっていいほど寺院を歩きます。

そんな折り、目に留まった箴言や道歌などを手帳に書き留めたりします。小さな寺や名も無い祠などでもおもしろい言葉に出合ったりします。ひよっとしてご存知の方も居られるかもしれませんが、「生まれ変わるなら生きているうちに」とか「年寄り笑うな往く道だ子ども叱るな来た道だ」「知らぬ道 知った振りして迷うより 聞いていくのがほんの近道」「信者と書いて儲ける！ この気付きに、しばし絶句！」どこかユーモアがあり、ご尤もと姿勢を正されます。

一方、歴史上の人物や偉人、文化人などが

残した名言、名句にも人生の標となり生活の滋養となるものが多く聞かれます。私が好きな言葉で恐縮ですが、「稽古とは 一から習い十を知り 十よりかえる元のその一」(千利休)。シンプルですが、武道やスポーツ、習い事、芝居など全てに共通する名言です。

「どんな悲しみや苦しみも歳月が癒してくれます。そのことを京都では『日にち薬』と呼びます。時間こそが心の傷の妙薬なのです」(瀬戸内寂聴)。救われますね、この方に言われると。

柴田トヨ……偉人ではありませんが、ごく普通のおばあちゃんからスーパールおばあちゃんに。90歳で詩を書き始め92歳になつて産経新聞の「朝の詩」に初入選。98歳で詩集『くじけないで』を初出版、160万部を超えるベストセラーに。100歳の時の詩「人生、いつだってこれから。だれにも朝はかならずやってくる」。励みになります……言葉の力、ことばこぶ！